

# 令和5年度 学校評価

伊予市立伊予小学校

## 【評価の基準】

- A：目標を達成 (8割以上が肯定)
- B：おおむね目標を達成 (6割以上が肯定)
- C：あまり達成できていない (6割未満が肯定)

※ 各評価資料の結果をもとに総合的に判断する。

【目標値】80%が肯定 以下同様

## 【評価母体数】

教職員	25
児童	347
保護者	244
地域	25

## 【評価の基準・肯定割合】

- ◎ 8割以上肯定
- 6割以上肯定
- △ 6割未満が肯定

## 【アンケートの内容】

- ア：たいへんよい
- イ：よい
- ウ：あまりよくない
- エ：よくない
- オ：わからない

項目	小項目 (重点目標)	評価指標	評定	考察・改善の方策	アンケート 対象	肯定割合	アンケート結果 (%)				
							ア	イ	ウ	エ	オ
教育 課程・ 学習指導	確かな学 力の定着 と向上	家庭と協力して家庭学習の習慣(1~3年生は30分以上 4年生以上は、学年×10分以上)が身に付いている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習習慣を身に付けさせたり、学習に向かう意欲を持たせたりすることに対して問題を感じている保護者がいる。教職員も肯定的な意見の割合が多いものの、家庭学習の内容に問題を感じている。</li> <li>◆ 毎月の家庭学習強調週間を活用し、課題の持たせ方、取り組む学習内容などについて、一人一人と話し合いを持って設定するようにしてから、家庭学習の取り組み方に改善が見られる。これからも継続して指導していきたい。</li> </ul>	教職員	◎: 84	16	68	16	0	
		児童	◎: 82	42	40	16	2				
	保護者	○: 61	18	43	27	10	1				
	地域										
	発達段階に応じた表現力(話す・書く)が身に付いている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業内で児童が学習を振り返る機会や時間が増えたため、自分の思いを言葉に表す機会が増えたため、肯定的に捉える児童が多いと考えられる。</li> <li>◆ 朝の時間に、インターネットのコンテンツを活用し、読み取ったことを書く活動や考えたことを表現する活動を取り入れている。また、授業の振り返りの場面を中心に、話す・書く活動を今後も意図的に取り入れていきたい。</li> </ul>	教職員	○: 79	5	74	16	5		
		児童	○: 78	45	33	17	5				
	保護者	○: 78	22	56	18	3	1				
	地域										
	心の教育 の充実	道徳科の時間を中心に、自他の生命を大切に作る心やよりよく生きたいという心が育っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道徳教育の重点目標をもとに、道徳科と各教科、各学年の学びのつながりを意識して実践を重ねた。授業の中で考えを広げたり、深めたりする時間を大切にすることで、個々の心を育てることができたと考えられる。</li> <li>◆ 学習を通して共有した道徳的価値が、日常の学校生活の中での個や集団の実践に結びつくように、観察・評価・支援に努める。</li> </ul>	教職員	◎: 95	27	68	5	0	
児童		◎: 95	68	27	4	1					
保護者	◎: 97	37	60	2	0	1					
地域											
一人一人の違いを認め合い、人権を大切に する集団づくりがなされている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 様々な人権問題について、道徳科や学級活動等で発達段階に応じた学習を位置付けている。参観授業や学校通信等で、子供たちの学びについて保護者に伝えることができたためだと考える。</li> <li>◆ 新たな人権課題に対応できるように、各学年の年間指導計画を見直すのとともに、PTA人権・同和教育推進委員会を中心とした保護者の学びの場の提供に努める。</li> </ul>	教職員	◎: 95	27	68	5	0			
	児童	◎: 92	60	32	7	1					
保護者	◎: 90	27	63	6	1	3					
地域											
健康教育 の推進	楽しく学校生活が送れている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一人一人の児童を大切にしようとする雰囲気があふれているだけでなく、教育相談週間における生活アンケートを活用し、児童一人一人と向き合うことができていたためだと考える。</li> <li>◆ 児童を大切に作る姿勢を常に持ち、児童が安心して楽しめるような教育活動をこれからも行っていく。</li> </ul>	教職員	◎: 95	53	42	5	0		
	児童	◎: 92	65	27	5	3					
	保護者	◎: 91	46	45	6	2	1				
地域											
「早ね、(低学年は9時、中学年は9時半、高学年は10時)早おき、朝ごはん」 の習慣が定着している。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 習い事や塾等、様々な要因から就寝時間が遅くなっていることが考えられる。就寝時間の遅れから、起床時間が遅くなったり、朝ご飯を食べなかったりするなど、生活リズムの乱れにつながっていくことが考えられる。</li> <li>◆ 児童が自らタイムマネジメントを行えるように教職員・保護者が協力して指導していく。また、よりよい生活を送るための方法を一緒に考える時間を設ける。(放課後の過ごし方など)</li> </ul>	教職員	○: 79	5	74	21	0			
	児童	○: 72	42	30	20	8					
保護者	○: 72	37	35	21	6	1					
地域											
外遊びや個に応じた体力づくり(マラソンやなわとび、アサカツなど)で健康の 保持・増進に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 業間マラソンやなわとび、アサカツなど、年間を通して体を動かす活動を取り入れることで、健康の保持・増進に努めたが、保護者の肯定率はまだまだ低いことが分かる。</li> <li>◆ 学校内に留まらず、家庭と協力して取り組める活動や、学校の様子を積極的に知らせられる方法を模索していく。</li> </ul>	教職員	◎: 84	21	63	16	0			
	児童	◎: 82	57	25	12	6					
保護者	○: 66	26	40	25	8	1					
地域											
学校関係者 評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「確かな学力の定着と向上」において、保護者の評価が低いのは、保護者も子供の学力に関心が高いということ。</li> <li>・「心の教育の充実」において、PTA人権・同和教育推進委員会での勉強会の開催やよりよい道徳科の授業によって評価が高く、感心する。</li> </ul>			学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまりよくない、よくないという保護者や地域のご意見を、学校への期待の表れと受け止め、子供たちのためになることを考え、改善をこれからも続けたい。</li> <li>・保護者に学校での授業の様子をお知らせしたり、児童の家庭学習への取り組み方や取り組む内容などについて保護者と共有したりするなど、保護者への啓発をして学力の定着と向上を図りたい。</li> </ul>						

項目	小項目 (重点目標)	評価指標	評定	考察●・改善の方策◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果%					
							ア	イ	ウ	エ	オ	
生徒指導	生徒指導の徹底	自分から気持ちのよい挨拶や返事ができる児童や正しい言葉遣いができる児童が育っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童の自己評価に対して、教職員、保護者の肯定割合が低く、認識の差があることが分かる。児童にとって「気持ちのよい挨拶」が抽象的であり、具体的な挨拶の仕方が分かっていないことが一因であると考え。</li> <li>◆ 気持ちのよい挨拶とはどのようなものか、正しい言葉遣いとはどのようなものかを具体的に考える機会を増やす。また、委員会活動などを通して学校全体で挨拶を啓発していく。</li> </ul>	教職員	○	64	11	53	26	11	
		いじめ・不登校の早期発見・早期解決に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教職員・児童の肯定割合が9割を超えている。毎月行っている学校生活アンケートや教育相談、日々の関わりから、いじめ・不登校の未然防止、早期発見に努めていることで、安心した環境を整えられていると考える。</li> <li>◆ いじめや不登校の未然防止・早期発見は、学校と家庭の連携がとても重要である。児童を中心に据え、教職員と保護者が積極的に連絡を取り合うことができるよう、信頼関係を築いていきたい。</li> </ul>	教職員	◎	100	58	42	0	0	
特別支援教育	特別支援の推進	教職員の共通理解のもと、特別な支援を要する児童について、個々の指導計画が作成され、日々の支援の記録の蓄積がなされている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今年度より通級指導教室が新設されたことにより、特別な支援を要する児童への関わりを充実させることができた。特別支援教育コーディネーターが中心となって児童への適切な支援を考え、実践したことで、個に応じた支援が成されている。</li> <li>◆ 今後も保護者と共通理解を図りながら、日々の支援にあたりたい。</li> </ul>	教職員	◎	100	42	58	0	0	
		校内体制を整え、関係諸機関との協力が必要な児童について、教師間や教育センター・施設・通級指導教室等と連携を図っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多くの児童とスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、伊予市教育相談員が関わる機会を設けたことで、相談しやすい雰囲気ができてきている。また、専門的立場からの助言をいただくことで、個に応じた支援や支援体制づくりに生かすことができたため、高い評価なのであろう。</li> <li>◆ これからもより多くの児童に悩みを相談する窓口があることを伝えていくことで、どの児童も安心して学ぶことができる学校を目指していきたい。</li> </ul>	教職員	◎	90	53	37	10	0	
研修	指導力の向上	信頼される教師として、一人一人の児童や家庭に適切に対応している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童が「できた」「分かった」「次が楽しみ」と思える学ぶ楽しさを実感できる授業を教師が考え、授業の中で児童の反応や成果物から、教師がその手応えを感じることができているためであろう。</li> <li>◆ 今後も、児童一人一人と向き合って課題を明確にし、児童が学ぶ楽しさを実感できる授業を組み立てていきたい。</li> </ul>	教職員	◎	100	53	47	0	0	
		自己を磨く教師として、常に学ぶ姿勢を持ち、分かりやすく工夫した授業に努めるなど、自己を向上させようとしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今年度は、児童の学びに有効なICTの活用方法の研修を充実させることができ、ICTを活用して、児童に振り返りの大切さや協同的な学びの楽しさを実感させることができつつあるため、高い評価なのであろう。</li> <li>◆ これからも、ICTを最大限に活用し、主体的で協同的な学びが展開できるよう、研修を継続していきたい。</li> </ul>	教職員	◎	95	37	58	5	0	
		協同する教師として、他の教職員とのコミュニケーションに努め、教育目標に向けたよりよい教育実践を行っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年齢関係なく学び合う雰囲気があるため、効果的な指導方法について話し合い、授業改善に努めることができたためであろう。</li> <li>◆ ベテラン教員の経験や指導力と、若手教員のICTスキルや新たなことに挑戦しようとする姿勢について、互いに刺激し合える場をこれからも設定したい。</li> </ul>	教職員	◎	89	47	42	11	0	
学校関係者評価委員の所見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ・不登校の早期発見・早期解決において、よくないと感じている保護者もいる。子供が進んで学校に行きたいと思えるようにしてほしい。分からないと答えている保護者もいるのは、学校の取組を周知できていないのではないかと。</li> <li>・毎朝出会った子供に挨拶をしているが、マスクをしているからか、表情が見えなかったり、声がこもったりして、挨拶をしているかどうか分からないことがある。</li> </ul>	学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育相談員と子供や保護者がつながる機会を確保し、いじめや不登校の未然防止・早期発見のための体制づくりをしていることを保護者や地域にお知らせをしていく。</li> <li>・学級・学年内でも人間関係づくりを大切に活動を取り入れたり、学習で分からないから学校へ行きたくないという子供が出ないように、学習指導の工夫改善にも力を注いだりしていきたい。</li> <li>・気持ちのよい挨拶が学校だけでなく地域にも広がるように、これからも指導を続けたい。</li> </ul>								

項目	小項目 (重点目標)	評価指標	評定	考察●・改善の方策◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果%					
							ア	イ	ウ	エ	オ	
安全管理・施設設備	安全・安心な学校づくり	避難訓練・防犯訓練等を適切に実施し、児童に適切に行動できる安全対応能力が育っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今年度は、火災を想定したり地震によるため池の決壊を想定したり、また、予告なしの避難訓練を行ったりした。参観日を利用して引き渡し訓練も行った。そのため、教職員・児童・保護者の防災に対する意識が高まっているのではないだろうか。</li> <li>◆ 今後も様々な想定下で避難訓練を行っていく。また、児童への事前事後の指導を充実させ、地域の方々とともにできることを考え、非常事態に備えて、自助、共助、公助の防災対策を推進していきたい。</li> </ul>	教職員	◎	89	26	63	11	0	
		児童	◎	94	64	30	3	2				
		保護者	◎	84	19	65	12	1	3			
		児童の安全確保のため、校外指導が充実している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教職員・保護者・地域ともに高い評価である。登下校の安全確保に関する連携が進んでおり、地域の皆様のご協力に感謝申し上げたい。</li> <li>◆ 児童の安全を守るために、今後も学校・保護者・地域が協力して校外指導を行う。年度初めの交通安全教室だけでなく、各学年に応じた指導を学校で継続的にを行い、児童の安全に対する意識を高めたい。</li> </ul>	教職員	◎	90	32	58	11	0	
		環境美化・施設設備の整備など、よりよい教育環境づくり、安全・安心な学校の施設・設備の整備・充実に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 昨年度に引き続き、高い評価である。毎月の安全点検だけでなく、伊予市教育委員会と連携しながら迅速な対応を行っているために、安全・安心を脅かす事案が起きていないためであろう。</li> <li>◆ 児童の目線も取り入れながら、安全・安心な学校づくりやよりよい教育環境づくりに努めていきたい。また、校舎の長寿命化も見据えた修繕の要望を適宜出していきたい。</li> </ul>	教職員	◎	94	26	68	5	0	
					児童	◎	90	56	34	8	2	
					保護者	◎	90	32	58	4	0	6
					地域	◎	88	32	56	0	0	12
保護者・地域住民との連携	地域に根ざした学校づくり	地域の人材や教育資源を生かした教育活動がなされている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 昨年度に引き続き、活動内容を変更したりしたこともあったが、南伊予の地域の方々のご協力を得て、温かく子供たちの学びを支えていただいたためであろう。</li> <li>◆ これからも子供たちのよりよい学びのために、地域の人材や教育資源を十分に活かした教育活動を継続していきたい。</li> </ul>	教職員	◎	95	53	42	5	0	
		学校だより・学年だより、ホームページ等で学校の情報を積極的に発信している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大きな行事を中心に、定期的に各通信やホームページ等で学校の教育活動の様子を伝えたり、保護者への啓発を行ったりしたため、高い評価なのである。</li> <li>◆ 今後もより分かりやすい情報発信を目指して取り組んでいきたい。</li> </ul>	教職員	◎	89	42	47	11	0	
		幼稚園・保育所・中学校との連携が図られている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人権・同和教育参観日をはじめ、小中合同運動会など、行事を中心に中学校と連携を図ることができた。幼稚園や保育園とは、保幼小連絡協議会を開くことができ、授業や保育参観やその後の話し合いを重ねることができたため、高い評価を得ることができたのである。</li> <li>◆ これからも隣接した立地条件を最大限に生かすとともに、活動ありきではなく、子供たちのよりよい学びにつながるような方法を模索していく。</li> </ul>	教職員	◎	90	16	74	11	0	
					児童							
					保護者	◎	80	25	55	9	0	11
					地域	◎	83	29	54	0	0	17
業務改善	教職員の負担軽減	勤務時間やワーク・ライフ・バランスを意識した働き方をしている。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全国的に教職員の勤務時間の超過が問題視されている。現在、教職員自身が働きがいについて考えたり、生活との調和について見つめ直したりしており、改善を図っている過程だから低い結果なのだろう。</li> <li>◆ これからも働きがいを感じつつ働くことやプライベートを充実させることなど、教職員一人一人が自分の生活を見つめ直し、豊かな時間を過ごすことができる環境を整え、教育に還元していきたい。</li> </ul>	教職員	△	48	16	32	42	11	
		早く退勤できる環境（職場）になっている。（時間的にゆとりがある。早く帰れる雰囲気がある。）	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 昨年度より高い評価となっている。時期によっては多忙なこともあるが、行事や会議、研修の見直しを行ってきたからであろう。</li> <li>◆ これからも行事や会議、研修等の見直しや効率化を図り、特定の教職員に負担が偏らないように、チームとして働くことができる環境を整えていきたい。</li> </ul>	教職員	○	74	11	63	16	11	
		ストレスの少ない働きやすい環境になっている。（精神的なゆとりがある。協働的な職場になっている。）	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 毎日やるべきことが多く、時間的な余裕はない。しかし、チームとして取り組むことができ、互いを助け合う土壌がある。精神的なゆとりは確保できているため、概ね高い評価なのである。</li> <li>◆ 教職員間の人間関係は良好である。これからは時間的にもゆとりを生むことができるよう、建設的な意見が出し合える環境を整えていきたい。</li> </ul>	教職員	○	68	47	21	32	0	
					児童							
					保護者							
学校関係者評価委員の所見	・教職員の勤務環境がよくなれば、学校全体の雰囲気もよくなる。例えば登下校の安全指導をPTAや地域の力を借りることができれば、教職員も学校での子供の指導に当たることができる。子供たちに還元されるような改善をこれからも続けて欲しい。		学校の対応	・学校の活動を充実させるためには、教職員の力だけでは、人員的にも時間的にも難しいことがある。今年度も朝の時間の読み聞かせの活動や生活科、総合的な学習の時間におけるゲストティーチャーなどで多くの地域の力をお借りした。コミュニティスクール導入に向けて、今後も保護者や地域の方との連携を強化し、開かれた学校づくりに努めていきたい。								